

坂口志文特別教授 (WPI-IFReC) が「ガードナー国際賞」を受賞



3月24日中之島センターでの記者会見

免疫学フロンティア研究センター (WPI-IFReC) の坂口志文教授 (大阪大学特別教授) のカナダ「ガードナー国際賞」の受賞が決定しました。ガードナー国際賞は、カナダのガードナー財団より、「医学に対して顕著な発見や貢献を行った者」に与えられる賞で、世界で最も権威ある科学賞の一つです。

過去、日本人では、石坂公成 夫妻 (免疫学)、利根川進 (免疫学)、山中伸弥 (再生医学)、森和俊 (細胞生物学) の各氏が受賞しています。

大阪大学からは、2011年に現WPI-IFReC拠点長の審良静男特別教授 (免疫学) が受賞しており、坂口特別教授は2人目となります。

【受賞理由】

“for his discovery of regulatory T cells, characterization of their role in immunity and application to the treatment of autoimmune diseases and cancer”

「制御性T細胞の発見と免疫における役割の解明、ならびに自己免疫疾患と癌の治療への応用」

※大阪大学ニューズレター No.62 (2013.12) で、坂口特別教授の研究を紹介しています。(P.7-8)

なお、授賞式は今年10月にカナダ・トロントで行われる予定です。また、受賞者には、ガードナー財団より10万カナドルが贈られるとともに、10月26～30日に「ガードナー週間」が設けられ、受賞者の講演会がカナダ各地で開かれる予定です。

坂口志文特別教授の受賞の喜び

長年の仕事に対して国際的に認められて大変うれしい。この分野 (の研究) はたくさんの人が (研究を) やってきたわけではなく、ここ15年くらいでいろんな研究者がやり始めてきた。その代表として賞をもらったと思っています。研究は何年やっても面白いものが出てくる。研究を長年持続できたことは非常にラッキーだと思っています。結果として賞をもらったことでこの分野が注目されることも喜ばしい。人への貢献、特にがんや難治疾患の治療にこの研究を活かすことが重要と改めて認識しています。将来根治がどこまで可能かと期待をもちながら研究を続けていきたい。